

令和4年度学校評価について(総括)

学校評価の活用等について(課題の改善に向けた具体的な取組み等)

領域	具体的な取組み
1.学校経営	<ul style="list-style-type: none"> ・本校は地元中学校(自転車通学圏)からの入学者が多く、地域に根ざす学校づくりとして地域と協働した教育活動を行っている。このことは、学校運営協議会でも地元から信頼される学校づくりの取組みとして評価を受けている。今年度の1年生から始まった新教育課程とそれに伴う観点別評価の導入、B Y O Dによる1人1台端末の活用など新たな取組みが行われた。今後は個別最適な学びがI C Tを最大限活用することにより推進するよう学校I C T化推進委員会を中心に研究を進め、教員全体のものにしたいたい。 ・新型コロナウイルス感染症は新たな局面を迎えつつあるが、今後も学校全体で感染症対策をとりながら学校教育活動を少しずつ以前の形に戻していきたい。コロナの影響は少なからず出てきており、個人面談の充実などで心のケアについて意識的に対応し、生徒とその保護者等の期待に応える学校づくりを目指す。
2.学習指導	<ul style="list-style-type: none"> ・家庭学習をしている生徒は少しずつ増加しているが、約4割が全くしておらず、改善を図る必要がある。授業の振り返りシートやまとめのプリントなど家庭学習にふさわしい教材を提供しているが学習時間の上昇にはまだ結びついていない。今年度から導入した1人1台端末による学習をより進め、次年度から導入する教育クラウドサービスを利用し、朝の「北高タイム」と家庭学習で学び直しや基礎学力の充実を図っていききたい。 ・プロジェクターを活用した授業法に多くの教員が取り組み、生徒にとっては見やすく理解が深まる授業になり、教員にとっては板書時間の短縮による効率化を図ることができた。 ・「学びの変革」拡充プロジェクト指定校等が開催する公開授業への積極的な参加を促し、指導力の向上を目指した。校内においては、公開授業週間・研究授業を実施し、互いの指導力の研鑽に励んだ。
3.生徒指導	<ul style="list-style-type: none"> ・スマホ預かり指導の取組みが定着し、休み時間から授業へスムーズな移行、スマホの不適切使用による問題行動が生じなくなった。また、いわゆるスマホ依存症・ゲーム依存症の生徒も見られていない。さらにスマホに費やす時間が読書に移行する生徒が増加し、図書館の利用向上などの成果も見られた。 ・頭髪服装や遅刻についての指導、朝の立ち番、挨拶運動等が効果をあげており、生徒・保護者アンケートからも高い意識で規律ある学校生活を送っているという結果が出ている。挨拶や身だしなみについても、引き続き地域住民からも信頼されるよう指導していきたい。 ・自転車マナーの改善にむけて啓発を行い、多くの生徒はマナー遵守と安全運転に努めている。しかし、一部生徒のマナー違反があり、苦情も寄せられている。より一層の取組みが必要である。
4.進路指導	<ul style="list-style-type: none"> ・本校は多様な進路希望先に対応した体制を敷いている。今年度は進路ガイダンスの改善を図るだけでなく、アクティブワーキングガイダンスも3年目になり、内容がより充実してきてきた。1年生の早い段階から卒業後の進路について積極的に考えるようになってきた。 ・例年より多い就職希望者に対して、2年生の3学期から模擬試験や面接指導などの就職支援を行い、希望する企業等への内定を得ることができた。 ・進学希望者への支援については、年々変化する選抜方法に合わせた研究を進め、より充実した進学指導ができるよう取り組んでいく。 ・コロナ禍での社会状況の変化に柔軟に対応できるような進路指導を心がけるとともに、生徒の進路意識の養成と学力向上に取り組んでいく。

5.特別活動等	<ul style="list-style-type: none"> ・感染症対策をとりながら、時期や形態を工夫し特別活動を計画通り実施することができた。学年主催の校外学習や2年生修学旅行、生徒会主催の体育祭、文化祭、生徒指導課主催の地域と協働した避難訓練など、昨年度以上に特別活動が実施することができ生徒の自主性の育成などに効果を上げた。生徒の満足度は例年並に高く、学校行事に関わる項目について保護者・生徒とも前年度を大きく上回った評価となった。 ・女子生徒の運動部活動への加入者は男子に比べ少なく、特に2年生女子の加入者は10人に満たない。女子生徒の部活動加入率は以前からの課題であるが、今一度検討を要する課題である。
6.学校図書館	<ul style="list-style-type: none"> ・スマホ預かり指導に伴い、休み時間を図書館の読書で過ごす生徒が昨年度よりさらに増加した。特に、昼休みの図書館利用者が、昨年度と比べて倍増した。併せて、貸し出し冊数も増加した。 ・毎月の読書週間の取り組みを継続し、意欲的に読書をする生徒を育成している。教科指導等を通して読書活動を促すような取り組みも必要である。 ・図書館だよりを紙媒体の配布だけでなく、連絡網での電子配布も行い生徒・保護者が読みやすい工夫を行なった。刷新される学校 HP の活用も含めてより一層の浸透を図りたい。
7.保健安全指導	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒・保護者アンケートから、徹底して感染症防止に取り組んでいることがわかった。学校でもマスクの装着・換気の徹底・黙食の徹底の指導を行い、全教室に換気扇やCO2モニターを設置し、設備面での対策も強化したので生徒・保護者の意識は更に高くなっている。 ・マスク着用についての方針が変更されることに伴い、着脱は本人の意思に委ねられる。生徒の気持ちを大切にした指導を心がけていきたい。 ・生徒・保護者アンケートからも教育相談に対する評価は高く、教員も教育相談を特に心がけており、今後も教育相談の研修や日々の実践を通じて、生徒・保護者にとって相談しやすい環境を整え継続していく。
8.人権教育	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒アンケートから、他人に対する思いやり、人を傷つけたりしないように心掛けているという生徒の割合が多いが、未熟な言動が見られることもある。日常の教室内での生徒同士の会話にも日頃から注意を払い、問題を未然に防ぐよう、生徒観察を十分に行い、教員間で情報を共有し早期対応を徹底したい。 ・各学期にいじめ等アンケート調査を実施し、いじめの早期発見に努めた。結果については「いじめ対策委員会」に報告し、組織的に対応した。 ・コロナ禍により近隣の社会施設を訪問してのプログラムが今年も中止となった。代替行事として近隣施設より講師を招き福祉関係の講演会を実施した。生徒は積極的に耳を傾け、良い刺激となった。
9.環境教育	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒アンケートから生徒のゴミの減量・分別や美化に対する意識は高いが、必ずしも十分に達成できているわけでない。清掃の方法や、環境美化の重要性を根気よく指導していきたい。 ・舎外清掃および地域の清掃活動は1学期と3学期に実施した。
10.事務・管理	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒アンケートから施設・設備を大切に扱っているという意識が比較的高い。 ・破損箇所の修繕や教育環境の改善は速やかに実施できた。課題である生徒用トイレ改修の早期実現を目指していく。 ・紙の使用量が減少傾向にある。職員会議への校務用端末の持ち込みによるペーパーレス会議やメッセージや掲示板の積極的な利用により紙資源の減量化にこれからも取り組んでいきたい。 ・教員の個人情報の取り扱いについて研修を複数回実施し、継続的に高い意識が持てるように工夫している。今年度は職員AED研修、地域と合同の避難訓練も実施した。危機管理意識の高揚に引き続き努めたい。